

# 夢追い人列伝

## その八 「山口教員団伝」(下)

### 初めに

夢追い人列伝その八は、山口教員団伝の続編(下編)である。上編では、山口県バスケットボール協会を支えてきた屋台骨とも言える教員団の誕生からの約20年間、いわば黎明期の歩みを俯瞰してきた。下編では、その後の昭和末期から令和の今日に至るまでの壮大な物語を追いかける。

<b>山口教員団</b> (やまぐちきょういんだん) 男子 昭和35年結団 女子 昭和55年結団/平成2年活動中止 平成25年 国民体育大会準優勝/成年男子 (山口教員団中心) 平成28年 全日本教員大会優勝/教員男子 (山口教員団単独) 令和2年 「山口県教員団」に名称変更	<b>[男子]歴代監督</b> 五代 桑原英雄 S52~S56 六代 佐藤英雄 S57~S62 七代 塚田拓司 S63~H4 八代 山根浩一 H5~H11 九代 林 哲郎 H12~H16 十代 山本俊光 H17 十一代 枝折健吾 H18~H25 十二代 西村 悠 H26~H30 十三代 守田 智 R1~R2 十四代 廣中 俊 R3~
---	---

### 1 昭和末期

教員団の監督のバトンは、昭和52年に山田隆道氏から桑原英雄氏に、そして昭和57年に佐藤英雄氏へと引き継がれた。全国教員大会では、山田監督の時代から厳しい戦いが続いていたが、佐藤監督の時代になって、初戦突破を果たせるようになってきた。

国体教員の部は、昭和54年をもって廃止された。こちらも苦しい戦いを強いられ、最後まで中国予選の突破は叶わず、5年に一度の本国体全県出場の年も、勝利は遠かった。

昭和55年以降の国体では、一般男子と教員男子が統合され、成年男子という種別になった。県内では、代表チーム選考のため、実業団、クラブの有力チームと教員団で国体予選会が実施され、教員団が圧倒的な力を示していた。実業団やクラブからの補強選手を加えつつ、毎年教員団主体の国体チームが編成された。(国体予選については、残念ながら記録が散逸しており、詳細は不明である。)

のちに県の国体予選は廃止され、教員・実業団・クラブから選抜により国体チームが編成



昭和55年 全日本教員選手権大会(桑原英雄氏提供)

されるようになるが、教員団はその核であり続けた。教員団と国体成年男子チームの切っても切れない密接な関係は、今日まで続いている。胸に大きく漢字で「山口」と書かれたユニフォームを、教員団チームと国体チームが共用していた時期もあった。

## 2 女子教員団

教員団には女子チームも存在した。60年史「夢を追う」資料編には、昭和55年から平成2年までの11年間の活動が記録されている。

これ以前にも、佐浦益子氏のような女子教員プレイヤーは存在したが、国体の一般女子チームに加わる形での活動だったようである。国体に女子教員の部はなく、教員大会の女子の部が始まったのも、男子に遅れること8年、昭和46年であった。



昭和55年 全日本教員選手権大会(桑原英雄氏提供)

「女子教員団」は、江夏久美子氏を中心に岩国市近辺の教員が集まり、誕生した。前身は高水OGを中心とした岩国クラブである。監督は、高水学園の田丸暁氏に依頼した。その後、山口大の卒業生が加わり、教員大会などに参加した。

男子と同様に、女子教員団も国体成年女子チームと切っても切れない密接な関係にあった。国体監督は教員団監督が兼ねていた。ユニフォームも男子同様に共用していた。チームは、教員とクラブの選手が融合し、毎年のようにミニ国体を勝ち抜き、本国体で3年連続5位入賞(昭和60年～62年)などのめざましい成績を収めた。特に、木下博美、佐々木園美、上田康代、小城美佳の四氏は「四天王」と呼ばれ、長くチームを牽引した。上田氏と小城氏は、教員団出身である。

山口の四天王と呼ばれたヤスさん(上田康代氏)、セン(木下博美氏)、ササ(佐々木園美氏)、私の4人です。練習の後の飲みが好き、カラオケが好きと、よくまあこんなに似た人が集まったものだと思います。バカなことを、バカになりきり楽しむ私達でしたが、根底には、お互いが無条件に好きであり、全幅の信頼感をもっていました。

だから、バスケットをしても、お互いにやりたいことがよくわかり、ツーと言えばカーという間で、パスが通りシュートが決まったものでした。パスを通したいところに合わせて入ってくれる、そしてノールックでパスを通す。その逆に、ここで欲しいというところでちゃんとパスが来る。なんとも、口では説明しがたいことですが、この辺の呼吸がゲーム中に合うと、とても気持ちのいいものです。そういう気持ちのいいバスケットを、いっしょにしてくれた3人には、本当に感謝しています。他の3人もきっと同意してくれると思いますが、4人が集まらなかったら、お互いここまでバスケットを続け、第一戦で活躍することはなかったのではないのでしょうか。

(松本(旧姓・小城)美香氏手記「国体10年記」(1996年)から)

女子教員団は、結婚・出産でプレイヤーの数が減り、新規参加者もままならず、平成3年3月の山口県会長杯を最後に活動を終えている。しかし、バスケット愛の冷めぬメンバーたちは、ママさんチーム「ドリーム」を結成し、子連れで全国大会に参加した。

女子教員団と国体成年女子を牽引された田丸氏は一昨年（令和2年）亡くなられた。田丸氏と共にお世話をされた枝折幸正氏と藤崎靖幸氏も鬼籍に入られた。謹んでご冥福をお祈りする。



昭和57年 国体成年女子チーム(鈴木登美子氏提供)

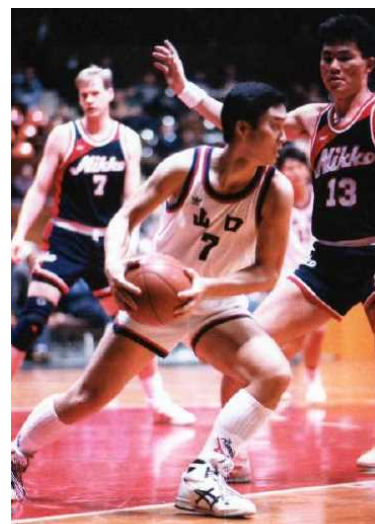
### 3 平成初期

男子教員団に話を戻そう。昭和63年、監督は、塚田拓司氏に引き継がれた。この頃、教員団は県内で圧巻の強さを誇っていた。6月に行われる県春季一般選手権では、昭和57年から平成6年まで13連覇を果たし、8月末に行われる県総合選手権では昭和61年から平成6年まで9連覇を遂げている。この間、中国総合選手権でも4回優勝し、全日本総合選手権（現・全日本選手権）に出場した。佐藤監督の最後の年に1回、塚田監督の時代に3回である。

こんなエピソードが残っている。平成3年1月、全日本総合選手権1回戦で、当時の日本リーグの雄、日本鉱業と対戦した山口教員団は、49-99のダブルスコアにもかかわらず、タイムアップの瞬間ガッツポーズ。それは、「日本リーグのチームの得点を二桁に抑えたぞ！」という雄叫びであった――。

教員団の第一期黄金期とも言えるこの時代を支えた主力選手としては、塚田拓司、児玉典彦、原守彦、松田省吾、西村修、八色一郎、樋口明弘などの名前が挙げられる。その後、中村浩正、中村昇、林哲郎、原裕之、池藤明、中村勉、久保田力哉、葉山雅基などが加わっていった。（敬称略・順不同）

原守彦氏と池藤明氏は、若くして病に倒れ、帰らぬ人となった。空の上からずっと山口県のバスケットを見守ってくれているに違いない。



教員団 vs 日本鉱業(桑原英雄氏提供)

塚田拓司氏は、キャプテン、監督として、第一期黄金期を築いた功労者である。島根県出身の塚田氏は、益田市の高校で臨時教員をしていたときに先輩教員のすすめで山口県の採用試験を受けた。これが山口県との縁の始まりである。昭和56年に教員団の一員となり、日体大1軍で鍛えられたプレーと、持ち前の統率力で、すぐさま教員団の中心選手となった。塚田氏は、「入団した頃は、勝ちきれない試合が続き、もどかしかった」と語る。だが、教員団は次第に勝利を食欲に求める集団へと変わっていった。

当時、ライバルの山口クラブの監督で、山口高校の監督も務めていた河上年博氏（県協会常務理事）は、当時のことを次のように述べている。

拓ちゃん(塚田氏)のプレーには度肝を抜かれた。3Pシュートがまだない時代に超ロングシュートを軽々入れられ、憎たらしいほどの駆け引きで翻弄された。それまでの教員団も決して弱くなかったが、拓ちゃんが加わって確実にパワーアップした。教員団の監督時代、個性の強い教員団の若いメンバーをまとめ上げた手腕も見事で、山口クラブはずっと打倒教員団が目標だった。個人的には、平成3年～5年、3年連続で県総合選手権の決勝で山口高校が教員



団と相まみえたことが思い出される。平成4、5年は2年連続4点差で敗れたが、高校チームで教員団に肉薄出来たことはチームにとっても自信となった。そのときの山高生の何人かは、教員団のあとに県総合選手権で7連覇を達成した山口クラブの主力となり、国体でも活躍してくれた。

－寄稿「教員団の思い出」から－

塚田氏は、国体の選手・監督としても活躍した。氏が選手時代の最も印象に残っている大会に挙げたのは、教員大会ではなく、昭和58年に宇部市で行われたミニ国体であった。強豪ひしめくミニ国体を遂に突破し、本国体の出場権を得た大会であった。多くの教員団OBも応援に駆けつけて、最高にうれしい大会だったと語る。国体監督時代は、前出の河上氏や、当時山口松下電器に勤務していた元全日本のセンター沼田宏文氏とともに、毎年強い国体チームを鍛え上げた。教員団の選手ながら主務として塚田氏を支えた内河賢氏の献身的な尽力も忘れることはできない。

河上氏は次のように語る。

国体チームの中では、クラブチームや実業団チームの選手も、教員団メンバーから大いに刺激を受けていた。チームワークは抜群で、元々一つのチームのようだった。国体チームは、メンバー構成が変わっても、当時の教員団を中心としたメンバーのスピリットがずっと根底を流れており、今日まで受け継がれていると強く感じている。

－寄稿「教員団の思い出」から－

#### 4 平成中期 －岡山国体準優勝－

監督は、平成5年に山根浩一氏（県協会専務理事）に、さらに平成12年からは林哲郎氏に引き継がれた。この頃から教員大会での快進撃が始まる。平成8年5位入賞、平成9年3回戦、そして平成10年から3年連続5位入賞である。河村淳一郎、今田充、有澤重行、唐渡大輔などの名前がチームに加わった（敬称略・順不同）。体格には恵まれなかったが、粘り強いディフェンスと抜群のチームワークで全国の強豪県に対抗した。

一方、国体成年男子は、平成4年に河上年博氏が塚田氏の後を受けて監督に就任し、平成6年の愛知国体で5位入賞を果たした。その翌年福島国体に出場した後は、ミニ国体を突破できないことが続いたが、平成17年、岡山国体で初の決勝進出を果たし、準優勝を飾ったのである。監督は山根浩一氏（県協会専務理事）、教員団の選手では若い枝折康孝、福永俊輔、守田智の三氏が躍動した。実は、この年ミニ国体では負けたのだが、某県が選手の登録違反で失格となり、繰り上げで出場権を得た大会であった。次々と強豪県を倒してついに決勝戦。相手は奈良県。会場には平日にもかかわらず山口県から大勢の応援団が駆けつけた。試合は接戦となるも山口がわずかにリード



平成17年岡山国体。応援団と共に(河上年博氏提供)

し、ほとんど勝利をつかみかけていたのだが、最後に奈良のブザービーターの逆転3ポイントが決まりゲームは終わった。勝利の女神は微笑まなかったが、成年男子初の準優勝は、まさに快挙であった。監督の山根氏は当時を振り返って、次のように語る。

ミニ国体で負けたあと、ふるさと選手がロッカーで泣いている姿を見て、大変申し訳なく思っていました。復活出場が決まったときは、その分、喜びが倍増し、国体では選手ともども闘志を爆発させることができました。決勝の応援は心強かった。山口県のバスケットをしている子どもたちに夢を与えられたと思います。(談話)

#### 4 平成後期 ―ツースリー、山口国体、教員大会優勝―

岡山国体から3年後の平成20年、山口国体の成年男子チームの母体チームとして、県下の有力選手をピックアップしたクラブチーム「ツースリー」が結成された。チーム名は山口国体開催年の「平成23年」に由来する。監督は、岡山国体準優勝の立役者の山根氏に白羽の矢が立てられた。選手も半数は教員団出身であった。着々と強化を図り、全国クラブ選手権で5位入賞するなど、全国屈指のクラブチームに成長したが、本番の山口国体では勝利をあげることができなかった。しかし、国体開催年の山口県・中国総合選手権で優勝し、さらに全日本総合選手権1回戦でインカレ7位の早稲田大学を撃破して、期間限定チームの有終の美を飾った。当時の全日本総合選手権は、日本リーグとインカレの上位チームに各地方ブロックの代表チームを加えてトーナメントが行われていた。地方代表のチームがインカレ上位校を破ることは「大番狂わせ」であった。大会公式サイト現地レポートにも「ツースリーの結実と、早稲田大の誤算」として取り上げられた。なお、2回戦では当時bjリーグだった千葉ジェッツと対戦し、敗れている。

当初の目的である山口国体入賞は叶わなかったが、ツースリーというチームを結成できたこと自体が、山口県バスケットの結集力を示すものであった。なお、ツースリーの活動期間中、教員団も残りのメンバーで全国教員大会5位入賞を2度果たしている。

山根氏は、ツースリーの思い出を次のように語っている。

選手には、国体だけでなくツースリーの活動を通して、山口県の子供たちに夢や希望を与えようと伝えていました。ミニから高校生まで合同練習もよく行いました。それもあってか、多くの方から応援していただきました。国体で勝てなかったことは残念で、申し訳なく思いますが、大変充実した五年間の活動でした。(談話)

さて、教員団の方は、山本俊光氏が平成17年の1年間監督を務め、平成18年に枝折健吾氏に引き継がれた。教員大会では平成12年の5位入賞以降低迷が続いていたが、北本久展、島袋脩、隅廣敬太郎、野口翔、高橋悠、河本賢一(敬称略・順不同)などの有力な若手選手が加入し、平成19年の5位入賞以降、最後の教員大会となる平成30年まで毎年のように上位入賞が続いた。第2期黄金期というべき時代である。

平成25年、ついに決勝の舞台に上がった。相手は滋賀教員。奇しくも3年連続の対戦であり、前々年60-97、前年61-77と、苦杯を喫してきた強豪チームに、三度目の正直とばかりに果敢に挑むも、あと一步届かず、53-55で涙をのんだ。しかし、チームの確かな成長が感じられ、「次こそは」と、飛躍を予感させる戦いであった。平成26年、その期待は新監督の西村悠氏に託された。そして、悲願の初優勝を果たしたのである。

この快挙を、新聞報道は「山口は2回戦から登場すると、抜群のチームワークを武器に優勝経験もある強豪県の代表を次々と下していく。準決勝で千葉に73-69で勝利すると、決勝は愛知Aを64-56で下して優勝。昨年は決勝で敗退し準優勝だったが、今年は見事に雪辱を果たした。



平成26年 全日本教員選手権大会優勝

主力選手は国体県代表チームのメンバーにもなっており、今後のブロック国体や本国体での活躍も期待される。」（平成26年8月16日 山口新聞）と伝えた。西村悠氏は、当時を振り返り、次のように語っている。

前年の準優勝のときに「準優勝はうれしいけど、あと一つ勝って優勝を掴みたい」と選手は口々に言っていました。それから1年間、「絶対“優勝”！」を合言葉に、皆で時間を作って練習の回数を増やして密度を上げ、大会直前には合宿も行って、本気で優勝を掴み取りに行きました。皆の気持ちが優勝という結果につながったと思います。歴代の先輩達から受け継いだこのチームで悲願を達成することができ、とてもうれしく、また誇りに思います。応援して下さった方々には、感謝しかありません。（談話）

なお、準優勝・優勝した平成25年度と26年度には、当時実業団、クラブ、教員各連盟上位チームで争われた全日本社会人バスケットボール選手権大会に教員連盟代表として出場している。また、平成26年から29年の4年間は、山口教員団から2チームが教員大会に出場している。

## 5 令和時代 —山口ペイトリオッツと山口県教員団—

平成30年以降、山口教員団をとりまく状況は、大きな変化を迎える。長らく国体のリハール大会としても開催されていた教員大会がこの年をもって幕を下ろした。翌年、全日本教員バスケットボール連盟は、実業団・クラブ・家庭婦人の連盟とともに、日本社会人バスケットボール連盟に統合され、教員団も企業チームやクラブチームと同じステージで活動することになった。

時を同じくして、「山口県にBリーグのチームを」との機運が次第に高まってきた。そして令和2年、「山口教員団」は「山口ペイトリオッツ」になった——。これにはいささか説明が必要である。

正確に言うと、翌年からのB3リーグ参入に向けてチーム登録を急ぐ必要があったため、山口教員団が日本協会の登録名を山口ペイトリオッツに変え、そこに国体監督であった枝折康孝氏と数名の選手が籍を置いたのである。他に、県内のクラブチームの選手と、プロを目指して県外からトライアウトを受けた選手が加わった。ペイトリオッツは、山口教員団の流れは引くものの、全くの新しいチームとしてスタートした。初年度は枝折康孝監督の下、アマチュアチームとして日本社会人連盟の地域リーグで活動し、中国・四国・九州リーグで3位の成績を収めた。練習には小学生から一般まで毎回見学者が訪れた。枝折氏



は、山口県のバスケット熱を感じたという。その熱に応え、地方からでも全国に通用するチーム、選手を育てて、山口の子どもたちに夢を与えたいという思いで疾走した1年であった。実は、ペイトリオッツには、B3リーグ加入の準備の他に、かつてのツースリーのよう国体成年男子のコアチームとなるという目的もあったのだが、肝心の国体がコロナ禍で中止となってしまった。

令和3年4月、ペイトリオッツのB3リーグ加盟が正式に認められた。チームはプロ監督とプロ選手に入れ替わり、すっかり別のチームになっていた。教員団はどこへ行ったかと言うと、あらたに「山口県教員団」というチームが立ち上げられ、引き継いでいた。1年目のペイトリオッツに籍を置いた教員選手たちも、山口県教員団に戻っていった。

「教員団」という名前に愛着があったが、まったく同じ名前での登録は認められなかったので、「県」の一字を入れたこの名前になったそうである。他県では「〇〇教員」「〇〇教員クラブ」などの名前が多い中、勇ましくも聞こえる「教員団」という名前は、長年培われたチームスピリットをよく表していると言えまいか。

## 終わりに

教員団。それは、バスケットボールをこよなく愛し、バスケットボールを通して子どもたちを育み、山口県バスケットボールの発展のために自己犠牲をいとわず邁進してきた、心優しくも熱く逞しい男たちの集団である。昭和30年代から連綿と続くチームは、個々のパワーと強固なチームワークで山口県のバスケットボールを牽引してきた。また、教員団を語ることは、すなわち国体を語ることでもあった。教員団の歴史は、山口県バスケットボールの歴史と表裏一体を成すと言っても過言ではあるまい。



山口県教員団(令和4年6月)

ただ、時代は大きな変換点を迎えている。昨今、教員の働き方改革が声高に叫ばれ、部活動の指導の在り方が課題になっている。国は、中学校の部活動の地域移行の方針を示した。県内でも多くのU15クラブチームが誕生しており、地域移行の動きは始まっている。この流れは、やがて高校にも及んでいくことであろう。その中で、「バスケット部顧問の先生」像は、変わっていくのではないだろうか。そうであっても、教員団には強く頼もしいチームであり続けてほしい。

教員団は今後も続くが、この「教員団伝」は、ひとまず完了とする。締めくくりは、現監督の廣中俊氏の言葉である。

歴代の先輩たちに鍛えられた教員団の選手たちは、各カテゴリーの指導者として頑張っています。私自身、教員団に育ててもらい、バスケットボールの楽しさ、チームで戦うことの大切さを学びました。教員団は、どんな時代であっても、子どもたちの目標、手本となるチームでなければなりません。そのためには、まずは自分たちがバスケットボールを楽しむこと。これからも、強い教員団、子どもたちの憧れる教員団であり続けたいと思っています。そして、そのことが山口県のバスケットボールの発展にもつながると信じています。(談話)

(文責 顕彰委員会)

山口教員団（男子）の歩み（昭和52年～令和3年）

年	監督	教員大会			国体 ※第35回以降は「成年男子」				
		回	場所	成績	回	場所	監督	選手	成績（※は全県出場）
1977 (S52)	桑原英雄	15	長野市	1回戦 山口44-75埼玉	32				
1978 (S53)	↓	16	延岡市	2回戦 山口58-92宮崎	33				
1979 (S54)	↓	17	宇都宮市他	1回戦 山口45-123栃木	34	宮崎県	〔教員男子の部〕	* 1回戦 山口52-75徳島	
1980 (S55)	↓	18	大津市	1回戦 山口67-80三重	35	栃木	(不明)	* 1回戦 山口60-97神奈川	
1981 (S56)	↓	19	札幌市	2回戦 山口68-94神奈川	36	滋賀	(不明)	---	
1982 (S57)	佐藤英雄	20	高崎市	1回戦 山口81-66 愛媛 2回戦 山口69-105兵庫A	37	松江	佐藤英雄	8名	---
1983 (S58)	↓	21	大和高田市	2回戦 山口56-59静岡	38	群馬	佐藤英雄	8名	1回戦 山口65-101群馬
1984 (S59)	↓	22	鳥取市他	1回戦 山口62-51京都 2回戦 山口46-76長野A	39	奈良	(不明)	(不明)	* 1回戦 山口96-76富山 2回戦 山口68-79奈良
1985 (S60)	↓	23	都留市	1回戦 山口71-68千葉 2回戦 山口68-80沖縄	40	鳥取	佐藤英雄	(不明)	---
1986 (S61)	↓	24	宜野湾市他	1回戦 山口92-69鹿児島 2回戦 山口51-80長野A	41	山梨	↓	(不明)	---
1987 (S62)	↓	25	京都市他	1回戦 山口93-50東京B 2回戦 山口74-51福島 3回戦 山口65-81熊本	42	沖縄	河上年博	8名	---
1988 (S63)	塚田拓司	26	札幌市他	1回戦 山口108-84宮城 2回戦 山口70-91群馬	43	京都	塚田拓司	7名	* 1回戦 山口76-61佐賀 2回戦 山口72-88京都
1989 (H1)	↓	27	福岡市	1回戦 山口83-91岐阜	44	北海道	↓	6名	---
1990 (H2)	↓	28	七尾市他	1回戦 山口68-97東京A	45	福岡	↓	7名	1回戦 山口70-80福岡
1991 (H3)	↓	29	山形市他	1回戦 山口68-53富山 2回戦 山口65-80山形	46	石川	↓	5名	---
1992 (H4)	↓	30	徳島市他	1回戦 山口70-69茨城 2回戦 山口61-84福岡	47	山形	河上年博	5名	* 1回戦 山口71-41佐賀 2回戦 山口55-61福島
1993 (H5)	山根浩一	31	岡崎市	1回戦 山口51-67神奈川	48	徳島	↓	6名	---
1994 (H6)	↓	32	いわき市	1回戦 山口94-34長野B 2回戦 山口73-83大阪A	49	愛知	↓	5名	1回戦 山口71-61徳島 準々決 山口56-89愛知 5位
1995 (H7)	↓	33	広島市	1回戦 山口54-83A東京A	50	福島	↓	5名	1回戦 山口60-72福島
1996 (H8)	↓	34	大阪市他	1回戦 山口95-54青森 2回戦 山口85-84大阪A 3回戦 山口89-63静岡 準々決 山口55-78東京A 5位	51	広島	↓	2名	* 1回戦 山口68-67愛媛 2回戦 山口78-101京都
1997 (H9)	↓	35	小田原市	2回戦 山口89-59岐阜 3回戦 山口58-64神奈川A	52	大阪	↓	(不明)	---
1998 (H10)	↓	36	熊本市	2回戦 山口76-59長崎 3回戦 山口83-67岩手 準々決 山口55-71熊本 5位	53	神奈川	↓	3名	---
1999 (H11)	↓	37	富山市	2回戦 山口63-51和歌山 3回戦 山口77-56富山 準々決 山口69-83大阪A 5位	54	熊本	山根浩一	3名	---
2000 (H12)	林 哲郎	38	仙台市	2回戦 山口69-42茨城 3回戦 山口73-67石川 準々決 山口58-97宮城 5位	55	富山	↓	4名	* 1回戦 山口61-85佐賀
2001 (H13)	↓	39	伊野町他	2回戦 山口64-82福井	56	仙台	(不明)	(不明)	---
2002 (H14)	↓	40	磐田市他	2回戦 山口70-80福井	57	高知	佐藤英雄	1名	---
2003 (H15)	↓	41	本庄市	2回戦 山口63-82沖縄	58	静岡	森田雅之	2名	---
2004 (H16)	↓	42	倉敷市他	1回戦 山口103-43東京B 2回戦 山口68-81新潟A	59	埼玉	佐藤英雄	3名	* 2回戦 山口64-106新潟
2005 (H17)	山本俊光	43	神戸市	1回戦 山口85-54静岡 2回戦 山口78-87埼玉	60	岡山	山根浩一	3名	1回戦 山口87-64茨城 準々決 山口88-57秋田 準決勝 山口75-66愛知 決勝 山口56-57奈良 準優勝
2006 (H18)	枝折健吾	44	能代市他	(不出場)	61	兵庫	↓	3名	1回戦 山口71-66石川 準々決 山口67-88福岡 5位
2007 (H19)	↓	45	大分市	2回戦 山口79-73新潟 3回戦 山口68-65愛知A 準々決 山口71-97福島 5位	62	秋田	↓	4名	1回戦 山口73-75北海道
2008 (H20)	↓	46	新潟市	1回戦 山口79-70岐阜 2回戦 山口72-90東京A	63	大分	↓	4名	* 1回戦 山口72-57愛知 2回戦 山口69-78石川
2009 (H21)	↓	47	船橋市	1回戦 山口85-66埼玉A 2回戦 山口68-58山形 3回戦 山口65-60和歌山 準々決 山口50-87千葉A 5位	64	新潟	↓	5名	1回戦 山口41-71愛知
2010 (H22)	↓	48	防府市	2回戦 山口82-44大阪B 3回戦 山口73-43静岡A 準々決 山口48-81愛知A 5位	65	千葉	↓	4名	1回戦 山口65-62北海道 準々決 山口47-79福岡 5位



山口教員団（男子）の歩み（昭和52年～令和3年）

年	監督	教員大会			国体 ※第35回以降は「成年男子」				
		回	場所	成績	回	場所	監督	選手	成績（*は全県出場）
2011 (H23)	↓	49	高山市	1回戦 山口77-39愛知B 2回戦 山口60-97滋賀	66	山口	↓	5名	1回戦 山口58-66岐阜
2012 (H24)	↓	50	立川市他	2回戦 山口66-53大阪A 3回戦 山口64-47埼玉A 準々決 山口61-77滋賀 <b>5位</b>	67	岐阜	枝折健吾	6名	* 2回戦 山口84(OT)87熊本
2013 (H25)	↓	51	長崎市	1回戦 山口72-63静岡B 2回戦 山口65-51愛知 3回戦 山口76-56大阪A 準々決 山口81-44宮城 準決勝 山口60-47愛媛 決 勝 山口 53-55滋賀 <b>準優勝</b>	68	東京	↓	5名	1回戦 山口61-84福岡
2014 (H26)	西村 悠	52	和歌山市	2回戦 山口87-46北籠倶楽部 3回戦 山口67-58福島 準々決 山口85-60宮城 準決勝 山口73-69千葉 決 勝 山口64-56愛知A <b>優勝</b> 1回戦 山口B 78-59秋田 2回戦 山口B 54-87愛媛	69	長崎	↓	4名	1回戦 山口68-58宮城 準々決 山口51-69福岡 <b>5位</b>
2015 (H27)	↓	53	一関市他	2回戦 山口73-66熊本 3回戦 山口65-53静岡 準々決 山口59-69群馬 <b>5位</b> 2回戦 山口B 48-66 大阪A	70	和歌山	西村 悠	4名	---
2016 (H28)	↓	54	愛媛県	2回戦 山口71-63石川 3回戦 山口67-56千葉 準々決 山口61-51兵庫 準決勝 山口45-66愛媛 <b>3位</b> 2回戦 山口B 34-97 愛媛	71	岩手	枝折康孝	4名	* 1回戦 山口81-69長崎 2回戦 山口64-88栃木
2017 (H29)	↓	55	福井県	2回戦 山口77-69神奈川 3回戦 山口62-46兵庫 準々決 山口66-52福井 準決勝 山口48-77福島A <b>3位</b> 1回戦 山口B 69-54岩手 2回戦 山口B 48-83愛媛	72	愛媛	↓	4名	---
2018 (H30)	↓	56	茨城県	2回戦 山口58-52群馬 3回戦 山口76(OT)68東京 準々決 山口67-70静岡 <b>5位</b>	73	福井	↓	1名	1回戦 山口61-73福岡
2019 (R1)	守田 智	教員大会終了			74	茨城	西村 悠	1名	1回戦 山口80-74北海道 準々決 山口77-68長野 準決勝 山口63-68茨城 <b>3位</b>
2020 (R2)	↓				75	鹿児島	(延期)		
2021 (R3)	廣中 俊				76	三重	(中止)		

山口教員団（女子）の歩み（昭和55年～平成2年）

年	監督	教員大会			国体（成年女子）					
		回	場所	成績	回	場所	監督	選手	成績（*は全県出場）	
1980 (S55)	田丸 暁	10	大津市	1回戦 山口48-59北海道	35	栃木	(不明)	(不明)	---	
1981 (S56)	監 督 の 間、 引 継 ぎ 田 丸 暁 氏、 枝 折 幸 正 氏、 藤 崎 靖 幸 氏 が	11	札幌市	1回戦 山口79-56埼玉 2回戦 山口39-79千葉	36	滋賀	田丸 暁	(不明)	* 1回戦 山口61-78沖縄	
1982 (S57)		12	高崎市	1回戦 山口58-67奈良	37	松江	↓	6名	1回戦 山口55-81東京	
1983 (S58)		13	樺原市	2回戦 山口62-46新潟 3回戦 山口26-62東京	38	群馬	枝折幸正	4名	1回戦 山口60-96兵庫	
1984 (S59)		14	鳥取市他	1回戦 山口34-86愛知	39	奈良	田丸 暁	(不明)	1回戦 山口57-69山梨	
1985 (S60)		15	都留市	1回戦 山口42-43埼玉	40	鳥取	↓	4名	* 1回戦 山口83-69熊本 2回戦 山口91-50愛媛 3回戦 山口98-59埼玉 準々決 山口55-74福岡 <b>5位</b>	
1986 (S61)		16	宜野湾市他	2回戦 山口58-39福岡 3回戦 山口55-63千葉	41	山梨	藤崎靖幸	3名	1回戦 山口64-62福島 準々決 山口65-76東京 <b>5位</b>	
1987 (S62)		17	京都市他	2回戦 山口50-87熊本	42	沖縄	佐藤英雄	1名	1回戦 山口78-58福井 準々決 山口66-88福岡 <b>5位</b>	
1988 (S63)		18	札幌市他	1回戦 山口80-70栃木 2回戦 山口45-99兵庫	43	京都	↓	2名	1回戦 山口67-91京都	
1989 (H1)		19	福岡市	2回戦 山口56-75大阪	44	北海道	↓	2名	* 1回戦 山口79-39 熊本 2回戦 山口50-80神奈川	
1990 (H2)		藤崎靖幸	20	七尾市他	1回戦 山口87-78福井 2回戦 山口44-106兵庫	45	福岡	↓	2名	1回戦 山口59-73石川